

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

こんど にちようび はは ひ かあさま なに かんが わたし  
今度の日曜日は、母の日ですね。お母様のために何かしようと、そろそろ 考 えているのでしょうか。私に  
は、もうすぐ 89歳になる母がいますが、遠くまで会いに行くこともままならず、せめてもいつもの電話とな  
りそうです。

きょう みな しょうかい し ふるきりょうこ しゅうどうじょかい  
今日、皆さんに、ぜひ、紹介したい詩があります。シスター古木涼子（イエスのカリタス修道女会）がおつ  
くりになった「いのち」という歌の詞の一部です。

いのちがこんなに尊いのは この世にたったひとつだから

いのち 命がこんなにきれいなのは 神さまが心こめてるから

いのちがこんなに愛しいのは それはあなた あなたのいのちだから

みな さんがこの世に生を受けて、初めて抱っこしていただいたのが、お母様だったでしょう。

そのお母様は、きっとこのような気持ちであなたを見つめ、抱っこしてくださったのだと思います。「かけが  
えのないあなた」とのご対面です。

はは ひ ひごろ かんしゃ こ なに かあさま よろこ  
母の日に、日頃の感謝を込めて何かをすることで、お母様に喜んでいただけるのはとてもいいことです。

でもその前に、ぜひ、最初に抱っこしていただいた時の、お母様のまなざしと思いを感じてみてください。

お母様が注いでくださったまなざしの奥にあったのは、神様のまなざしです。「神はお造りになったすべて  
のものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」（創世記1:31）

「良かった」というのは、神様の感動あふれる言葉です。「よしよし、なんて愛おしい！」

母の日に、お母様はもちろんのこと、あなたに至るまでのたくさんのいのちのつながりに思いを馳せてみ

ましょう。そして、それぞれのいのちの源である大いなる神様に、感謝する日でもありますように。



小林聖心南庭の聖母子像